

平成 22 年度

事業所名：介護予防施設西光荘グループホーム

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500021		
法人名	株式会社 金ヶ崎福祉フロンティア		
事業所名	介護予防施設 西光荘 (グループホーム)		
所在地	〒029-4503岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根和光544番地2		
自己評価作成日	平成 23 年 2 月 6 日	評価結果市町村受理日	平成 23年 5月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.2iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0392500021&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成23年 2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

酪農家が多い地域に立地しており、“利用者与我们職員は、人が人として‘心と心’が響きあえる時間の流れを大切にしていきます。風と光・水と土・・・和光の自然と地域の皆様と共に歳を重ねていき、楽しく生活できる毎日を支援いたします。”を基本理念として地域との共生を目標としています。入浴は天然温泉となっており、また、併設に駒子の湯や和光ドームがあり、定期田園バスが運行されている事もあり、面会やボランティア等交流も多いです。職員は「楽しく生活できる毎日」に重点をおき、季節ごとの馴染んできた行事等を企画し、利用者と共に活き活きと行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームはそれぞれ広大な放牧地を有する酪農家と接している。その各戸と災害等緊急時への協力体制がしっかりと整えられているとともに、幼稚園児等子どもたちとの交流もなされている。長い人生の最後のステージにおいて、縁があっても過ごすホーム、居心地の良いホームとして、利用者や家族に安心していただきたいとの職員の願いから、介護理念を新たに作り、共有し実践に努めている。利用者は、雪や緑等豊かな自然に抱かれたホームで、やさしい職員の日々の寄り添いを受けながら食事や入浴(温泉)、外出など、それぞれの居場所でのんびり生活をしている。隣接事業所の「ゆったりサロン」事業で高齢者の健康チェックの手伝いをしており、人材活用などで相互交流している。また併設の小規模多機能施設との連携を図りながら、GHホームでの通所介護サービスのあり方を模索している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

平成 22 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設西光荘グループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室内に理念を掲げ、毎朝申し送り後に唱和している。また、職員全員で介護理念を作り上げ、唱和している。	基本理念を日々の実践につなげるべく、新たに介護理念を全職員で話し合って作っている。理念は掲示や唱和するに止まらず、日々のケアの振り返りやケアプラン見直しの視点とするなど、身近なものとして共有し、実践している。	<介護理念・(略)> ①「利用者の安心」支援 ②「利用者の笑顔」支援 ③「利用者の意見尊重」支援
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	緊急時の地域の協力隊の編成、幼稚園児との交流、中学生の職場体験、また自治会に加入し運動会や盆踊り等の案内をいただき参加するなど、交流している。また歌や踊り等ボランティアに来ていただいている。	車椅子利用者が多くなったことなどから、出向いての交流は多くはないが、地域の運動会見学や中学生の鬼剣舞や西根甚句踊りの見学など、来所を通じて交流している。普段は、野菜の差し入れや回覧板を回すなどでお付き合いしている	近隣に民家が少なくことや、車椅子利用者が多いことなどを考慮した、この地ならではの交流方策の検討を引き続き期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者家族に対し認知症の説明や相談を受け、認知症の理解に向けての支援をしている。また、地元社会福祉協議会より依頼を受け、実習生を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催とし、利用者の利用状況や施設の現状報告を行っている。いただいた意見は即実行するように心がけている。また行事等にも参加していただき利用者・職員・施設の様子を見ていただいている。	推進会議は、地域の方々を多く委員にお願いしたり、町の介護相談員を加えるなどして、地域理解等地域密着を意識した会議を行なっている。家族アンケートの内容・結果に対する意見(少数意見のくみ取り)など、活発な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護福祉課、包括支援センターと日頃から連絡を取り合いながら、協力関係を築いている。地域ケア会議等の場でも助言を求めている。また運営推進委員に介護福祉課職員がいる。	推進会議や地域ケア会議、介護関係連絡会議などの場を通じて、それぞれの利用希望者の状況、行事計画など多岐にわたった情報交換を行なっている。役所とは、顔なじみの関係が出来上がり、普段から気軽に円滑な連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行い、拘束の種類などを確認しながら拘束を行わないケアに望んでいる。玄関の施錠は入浴等の関係で見守りが難しい時などに行うことがある。外に出ようとする利用者とはきちんと向き合い同行する事もある。	身体拘束の排除宣言を掲示するとともに、その拘束項目について、研修・話し合いをしながら共有と排除実践に努めている。皆で廃止に向けた話し合いや取り組みを重ね、つなぎ服の着用排除を実現するなど実践的に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やパンフレットの回覧など職員の周知を図っている。入浴時等に身体観察を行い注意を払っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在実際に日常生活自立支援を事業を利用している利用者がいるので、事あるごとにどのような物が説明はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明等を行っている。介護保険報酬改定等の際には文書や家庭訪問により説明・理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口の設置・アンケートの実施等行っている。管理者や職員は利用者家族の思いや意見を申し送りノートに記し、ミーティングで話し合っている。また、介護相談員の訪問を受けている。	毎年、アンケートを実施して、サービスの満足度や意見要望を聴いている。職員が目線を合わせてケア対応して欲しい、適時に衣服の着脱をして欲しい、車椅子は体に合ったものなど意見が出され、出来るものから、それぞれ対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例のミーティング時に意見交換を行っている。 また、利用者用の申し送りノートのほかに職員用の申し送りノートを作り、意見や提案を書き込めるようにしている。	実行委員会方式でのイベント開催や冷蔵庫の買い替え、台所の拡張など、幅広い意見や要望が出され、その反映方策も職員で検討しあっている。法人内の忘年会を開催するなど、職場以外での交流にも心配りしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人のコスト意識が強く、職員個々の努力・向上心に応えるような就業環境とはいえませんが、僅かずつではあるが給与や研修等待遇改善に着手し始めている。職員はやりがい・意欲を持ち、アットホームな雰囲気の中、活き活きと働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会がある場合は積極的に参加するように配慮しているが、費用・業務の人数の関係で制限される場合がある。内部研修は計画的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年他のグループホームへ研修に行き、日頃の悩みや疑問の解消の参考としている。また、グループホーム協会の定例会・交換研修、町主催の介護職員等連絡会議、社会福祉協議会主催の情報交換懇談会等に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談や申し込みがあった場合は、本人の健康状態や生活上の問題となる事、要望をアセスメントしている。また見学・体験に来ていただき、本人の要望や不安を理解するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族にも見学に来ていただき、家族の介護上の困難な事や思いに耳を傾けアセスメントしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況をよく聴き、また本人及び家族の要望を踏まえ、必要としているサービスが利用できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食器拭き等出来ることを手伝っていただいたり、花壇作りや野菜作り、山菜採り、漬物を漬けたりなど季節の行事を意見を聞きながら行っている。また、職員と利用者が一緒に食事を摂るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に本人の生活の状況の報告書を送っている。また、連絡を密にし、電話で本人と家族が話せるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の温泉の利用者が訪れてくれたり、近所の人達から花や野菜・漬物などをいただくことがある。また、移動販売や床屋の来荘など、新たな馴染みの関係を築いている。いつでも家族や馴染みの人達が訪問し、ゆったりと過ごせるように配慮している。	親戚や友人・知人が、時々面会に来て和やかな時間を過ごしている。実家や実家周辺への外出には家族等とも連絡を取り合いながら、可能な限りの意に沿って対応している。また移動販売や隣接温泉施設の売店など、利用以降からの関係づくりにも配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人が和やかに過ごせるように、コミュニケーションのとりやすい席の工夫や声がけなど利用者のペースの合わせて関わり合いの支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでは入院・死亡による契約終了がほとんどである。入院中は本人・家族に面会や訪問し相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わり合いの中で本人の思いを推し量り、ケアプランに反映するようにしている。意思疎通の困難な利用者は表情や言葉・しぐさの観察・気づきから推量している。	一部センター方式も活用しながら、把握に努めている。利用者それぞれの担当を決め、気付きノート作成、思いや意向を把握して共有するほか、ケアプランにも反映するなど工夫をしている。把握困難な方には気長な寄り添いで対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から生活歴・経緯・出来る事・好きな事(物)等を聞き取り、把握するように努めている。また、日々の会話や関わり合いの中から情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わり合いやバイタルチェック等で個々の行動パターン・出来る事や心身の状態の把握に努め、ミーティングや申し送り時に情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で本人や家族の意見や思いを聞き、職員も交えた意見交換をして、ケアプランに反映させている。	日々の見守りの中、利用者の状態にあわせて、随時見直しをするとともに、定期的には、各職員が記録した介護記録や気づきノートをもとにしながら、全職員で話し合ったり、回覧をしたりして共有し、3ヶ月ごとにケアプランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援記録に日々の様子を記録し、朝の申し送りで情報を共有し、それをプラン作成の参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活支援事業の利用、訪問診療の利用、床屋、クリーニングの訪問等、ニーズ発生時に随時対応を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ケア会議等を通し連絡調整し利用者にあった利用ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族にお願いしているが、受診の援助も行っている。また家族対応の受診の際に同行し状況・状態の報告、説明を受ける事もある。	希望するかかりつけ医となっている。受診は家族対応を基本としながら、都合のつかない場合などには、職員が柔軟に対応している。ホームでの状況をメモして持参願うなど、情報の連携にも心して、適切な診察となるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の様子を看護師に報告し、指示を仰いでいる。常に介護と看護が連携をとっている。看護師は利用者の状態観察に努め、適切な対応・指示が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には面会や家族から様子を伺い、必要があれば医療機関と情報交換を行っている。病状の経過・状態を把握し、利用再開時に混乱がないように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医と当事業所はどこまで出来るかなど話し合い、対応可能な機関へ移行できるよう支援している。	重度化や終末期・看取りへの対応については、差し迫った利用者はいないものの、近い将来の取り組み課題であるとして、今後、他事業所の取り組みを参考にしたり、職員などと話し合いを重ねて、その方向性や指針を定めたり、対応に向けた研修などについても検討したいとしている。	利用者家族のみならず、職員の重度化対応への不安を解消し、安心につなげるためにも、方向性や指針の検討、その対応研修などの機会を設けられることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急法の訓練を行っている。また、緊急時の対応についてのマニュアルの勉強会も予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と共に避難訓練を行っている。地域に協力員(3名)をお願いしている。	スプリンクラーはすでに設置済みであり、夜間想定や昼間対応の訓練についても、近隣の参加を得て実施している。職員は、消火器の使用法や心肺蘇生法を学ぶほか、AED(隣接の温泉施設設置)の講習を近く受講する予定としている。	いざというときの地域協力隊の役割(見守りなど)について、具体的をお願いすることにより、より安心につながると思われる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分が利用者だったらどう思うかという事を考えながら支援している。【認知症ケアの基本姿勢】を作成し職員に読んでもらっている。馴れることを戒め、目上の方として失礼のない対応の仕方を身につけることが大切と考えている。	利用者尊重の観点で先人としての尊敬に心し、一人ひとりの生活歴に沿った関わりのなかで役割や充実感が感じられるよう対応している。職員が教わる態度で接しており、八戸小唄がきっかけとなり、歌で元氣を得ている利用者がいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や関わりの中で本人の思いや希望を推し量り、いくつかの選択肢をもうけるなど自己決定しやすい状況を作り出すよう努めている。また皆で作上げた介護理念の中に「私たちは利用者の意思を尊重して支援します。」とある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事また午後のレクリエーション等時間は決まってはいるが、個々のペースで参加している。限られた職員数のなかで、一人ひとりがその人らしくという支援には至っていないのが現状である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら、洋服の選択、整容の支援をしている。 月1～2回床屋の訪問がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き・テーブル拭き等できる事を手伝っていただきながら準備や食事、片付けを行っている。また収穫した野菜や山菜での調理や干し柿作りなど一緒に行っている。	車椅子や意欲の低下などから、食事づくりに参加する方は少ないが、出来る方が、皮むきなど下ごしらえや下膳やテーブル拭きなど、無理なく参加している。山菜や家庭菜園の収穫物等、旬の材料を取り入れ、楽しみや美味しさにつながるよう心くばりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や好みに応じ、苦手なものは手を加えて食べやすく形を変えたり、とろみをつけたりソフト食にしている。また、個々の状態に応じた食事量を提供し、食事量・水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指導のもとに、毎食後の口腔ケアを徹底している。口腔ケアの研修にも参加し、口腔ケアの重要性を職員に認識してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表・排泄パターンにより声かけ・トイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄を促している。また個々の力や排泄パターンによって、オムツ・パッド等の使い分けをしている。	見守りや声かけで失敗しないように心配りしている。オムツの方にも声かけで、トイレでの排泄に努め、自信につなげている。部屋の床などに排泄する方も、職員の支援の積み重ねで、ポータブルトイレやトイレでの排泄につながった方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・ヨーグルト・牛乳・水分を意識的に摂取するようにしている。毎日軽体操を行っている。また、排便チェック表を記入し、主治医と相談して排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は天然温泉であり、入浴時間は午前となっている。併設の事業所で入浴するなど、個々の状態に応じた入浴を行っている。	入浴は概ね2日に1回となっているが、清潔保持等必要な方には毎日の入浴にも対応している。温泉そのものが楽しみという方から、一番風呂、職員と話すことが楽しみとする利用者まで、ほっとした表情でそれぞれの時間で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間は設けてあるが利用者の自由となっている。夜眠れない時などは温かい飲み物の提供や話相手など寄り添う支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬の目的・用法・用量・副作用の確認が出来るように専用のファイルに綴られている。服薬は利用者本人に手渡し、確実に服薬の確認を行っている。症状の変化は見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	併設の小規模多機能型「居宅介護のレクリエーション」に参加し、季節ごとの行事やカラオケを楽しんでいる。また可能な方は希望に応じ買い物やドライブを楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は職員の同行により、それぞれの意思で出かけている。花見や紅葉狩り等、季節感を感じられるようドライブを企画している。	あまり遠くない所、利用者の負担にならないよう心がけ、四季折々に桜見物や紅葉狩りに出かけている。外出の支援は、気分転換がまず大切との意識から外気浴や散歩なども含めて対応している。とりわけ、隣の温泉施設の売店や移動販売者への外出を楽しみにしている方が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な利用者はお金を所持している。併設の温泉の売店や移動販売で買い物をしている。職員が付き添い支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七夕飾り・クリスマス・正月・水木団子等季節感が感じられるよう飾り付けている。また行事の写真や書初めなど楽しみを思い起こるように展示もしている。	吹き抜けの天井に明るい窓、ゆったりとした廊下や食堂、厨房や事務スペースからは居室や利用者の遠近の見守りや声がけができるつくりとなっている。広い窓からの眺めは広大な四季の移り変わりを映し出し、パノラマのように心を落ち着かせる。花の時期には、利用者が放牧地で摘んだ花を飾って目を楽しませているという。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるようにソファの位置や食事の席を工夫している。テレビの前や廊下に畳スペース・テーブル・椅子があり、皆と離れて過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持ち込み、家族の写真や貼ったりなど、本人の居心地の良ように配慮している。仏壇を持ってきている利用者もいる。	桐のタンス、衣服・着替えなどから、目ざまし時計やカレンダー、家族の写真まで、それぞれに個性豊かなものを持ち込み住まっている。仏壇・遺影を設置し故家族を供養して落ち着いた生活をしている方もいる。清掃は職員とともに行ないながら清潔に配慮して居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーであり、手摺りもが設置されている。居室やトイレには必要があれば名前や目印をつけ見当識への配慮をしている。		